

Japanese Red Cross Narita Hospital 心臓血管外科

循環器内科と連携して成人の心臓血管外科のほぼすべての疾患に対し、最新の治療を行っています。

地域の中核病院として、救急部と連携し、心臓血管外科の緊急疾患に対し緊急手術対応をしています。（急性大動脈解離、胸部・腹部大動脈瘤破裂、急性心筋梗塞合併症である左心室破裂、心室中隔穿孔、急性僧房弁閉鎖不全症など）

心臓血管外科専門医認定機構の認定した修練施設です。

冠動脈バイパス手術では合併症の少ない人工心肺を使用しない手術（オフポンプバイパス術）を基本術式としていますが、高度の低心機能例などには人工心肺使用下の心拍動下手術をおこなっています。

弁膜症手術では手術後の生活の質が向上する自己弁を温存した弁形成術を積極的に行っています。

心房細動を合併した心臓手術に際しては、積極的にメイズ手術（高周波焼灼デバイス使用）を行っています。

胸腹部大動脈瘤に対しては積極的に人工血管置換術を行っています。ハイリスク症例にはステントグラフト内挿術を行っています。



心臓血管外科部長

渡邊 裕之

外科専門医
心臓血管外科専門医
心臓血管外科修練指導医
厚生労働省医政局長認定臨床研修指導医

01

研修期間

2年間

02

目的

- 臨床医として必要な外科的基本手技の取得
- 外科専門医取得に必要な心臓血管手術症例の経験
- 心臓血管外科専門医の取得

03

研修システムの特徴

- 成人の心臓血管外科疾患は、ほぼすべての症例が経験できます。
- 動一静脈シャント、末梢血管手術など、初期研修医が術者となれる対象症例が年間約100件程度あります。

04

代表的な週間スケジュール (定期的に行なわれている検査を含む)

	月	火	水	木	金
午前	手術	ICU 病棟回診	手術	ICU 病棟回診	ICU 病棟回診
午後	手術	(外来診療)	手術	(外来診療)	(手術)
午後3:00～					症例検討

05

研修期間中に経験する病態

急性/慢性の心不全・呼吸不全、心原性/出血性ショック、心臓血管外科術後状態

06

研修期間中に経験する疾患・習得すべき手技

- 虚血性心疾患、心臓弁膜症、各種不整脈、胸部・腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症をふくむ下肢末梢血管疾患、下肢静脈瘤、慢性腎不全(動一静脈シャント)、心臓血管外科緊急疾患(急性冠症候群、急性大動脈解離、動脈瘤破裂等)
- 血管露出、血管縫合・吻合、中心静脈カテ、スワンーガンツカテーテル挿入、心エコー、血管エコー検査、胸骨正中切開、肋間開胸、人工心肺装脱着、心・大血管手術の術後全身管理